



全日本室内選手権サイクルサッカー優勝 金剛東京のシュート

## シクリスムエコー No.166 2010年1月号

### 新年のご挨拶

平成22年の幕開けにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素は本連盟の諸事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年はずール・ド・フランスにおいて別府史之選手、新城幸也選手のふたりの日本人選手が大活躍しました。トラックレースでは2月コペンハーゲンで開催されたワールドカップ第5戦スクラッチレースで盛 一大選手が中距離種目として史上初の金メダルを獲得し、8月のジュニア世界選でのポイントレースでは元砂勇雪選手が銀メダル、上野みなみ選手が銅メダルと若い選手の活躍も見られました。

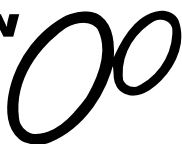
また、昨年12月にロンドン・オリンピックでの種目変更が発表されトラックレースにおいて、新しい時代に相応しい男女同種目に変更となりました。これにより日本で生まれたケイリンが女子種目にも採用されることが決定し、女子競技者の育成強化にもより力を注ぐことが必要となりました。

今年は、記念すべき第1回ユースオリンピック競技大会が8月にシンガポールで開催され、11月には4年に一度の第16回アジア競技大会が中華人民共和国・広州で開催されます。

我々はこのような変化の中で、ロンドン・オリンピックでのメダル獲得に向けてアジアで勝ち抜き、世界で活躍する選手の育成、更なる競技力の向上を目指すと共に、自転車競技の普及のため、登録競技者数の拡大推進についても積極的に検討を進め、関係者一同が新たな決意で精力を傾けて臨む所存であります。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。（財団法人日本自転車競技連盟 会長 岩橋昭一）

**KEIRIN**



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

# 第15回全日本シクロクロス選手権大会

## 男子は辻浦、女子は豊岡が逃げ切る!

KEIRIN   
この大会は競輪の補助金を受けて実施されました



男子チャンピオン辻浦

男子スタート



辻浦のフィニッシュ



男子2位小坂正則

12月13日、石川県金沢市のキゴ山で第15回を数える全日本シクロクロス選手権大会が開催された。数日後には降雪の予報が出される中、太陽の暖かさは感じるものの冷たい風が身にしみる。

ナショナル・セレクションシリーズ

全5戦の最終戦になるこの大会、男子は3連勝中の辻浦、女子は2勝の森田と1勝の豊岡に注目が集まる。特に辻浦と豊岡にはディフェンディングチャンピオンのプレッシャーがかかる。

まず9時50分、女子のレースがスタート。スタート直後から豊岡がスパートし、独走態勢を固める。最終的には2位の森田に2分の差を付けフィニッシュした。

その後12時ちょうど、男子のレースがスタート。序盤は辻浦、丸山、竹之内、小坂光、小坂正則らが先頭集団を形成。そして予想通り辻浦が抜け出す。その後2位争いを竹之内と小坂正則が繰り広げるが、経験豊富な小坂に軍配が上がる。3位となった竹之内であったが、アンダー23クラスの勝者としてチャンピオンジャージが贈られた。



男子3位で、U23チャンピオンの竹之内



女子チャンピオン豊岡

豊岡のフィニッシュ



女子2位森田



【競技結果】

第15回全日本シクロクロス選手権大会  
(2009/12/13 石川・金沢)

男子

- 1 辻浦 圭一 奈良 BS アンカー 1:00:31
- 2 小坂 正則 長野 スワローシグ 1:01:57
- 3 竹之内 悠 京都 TREK 1:02:25



- 4 丸山 厚 長野 MASSA 1:04:11
- 5 小坂 光 長野 BLITZEN 1:05:09
- 6 山本 聖吾 長野 スワローシグ 1:06:16
- 7 中山 和也 長野 スワローシグ 1:06:33
- 8 小森 亮平 広島 Trek U-23 1:08:23
- 9 入江 克典 大阪 シノドリリンク 1:08:27
- 10 松井 正史 京都 シノドリリンク 1:08:36

男子U23

- 1 竹之内 悠 京都 TREK 1:02:25



女子

- 1 豊岡 英子 大阪 パナソニックレディース43:05
- 2 森田 正美 神奈川 BS アンカー 45:08
- 3 中村 真清 大阪 — 46:31



- 4 志村みち子 埼玉 ラグニール 48:15
- 5 福本 千佳 大阪 ReadyGoJ 49:13
- 6 中島 織七 長野 スワローシグ 49:51
- 7 田近 郁美 岐阜 GOD HILL 52:32
- 8 武田 和佳 埼玉 ARAI 55:48
- 9 山口 博子 石川 パワーキック -1lap
- 10 中道のぞみ 京都 Salata bianca -1lap



女子スタート



男子ゴール後、祝福を受ける辻浦

# 第40回全日本室内自転車競技選手権大会

全てディフェンディングチャンピオンが連覇!

**KEIRIN** **00**  
この大会は競輪の補助金を受けて実施されました



エキシビションで行われたサイクルフィギュアペアの堀井(左)と芦田

平成 21 年 12 月 12・13 日、滋賀県草津市民体育館において第 40 回全日本室内自転車競技選手権大会が行われた。

サイクルフィギュア男子シングルは芦田史朗、女子シングルは堀井和美が優勝。

サイクルサッカーは初日の予選を勝ち進んだ 8 チームが、2 グループに分かれてリーグ戦を戦ったのち、順位決定戦に挑んだ。グループリーグでチームフジ(都築勝巳・森茂史)に不覚をとった金剛東京(木下直也・松田鋼)が、決勝では対戦 4 対 1 で勝利し昨年に続き優勝した。

### 【競技結果】

第40回全日本室内自転車競技選手権大会 (2009/12/12-13 滋賀・草津)

#### サイクルサッカー

- 1 木下 直也 松田 鋼 金剛東京
- 2 都築 勝巳 森 茂史 チームフジ
- 3 時倉 宗大 藤田 洋介 蔵前
- 4 合田 昌司 村上 裕亮 関西大学 A
- 5 大野 和俊 芦塚 正博 舞馬
- 6 宮本 武彦 山本 勝敏 ビンクス大阪
- 7 三須 友晶 田中 勝也 大阪大学 A
- 8 田中 識史 平野 賢 いよかん

#### サイクルフィギュア男子シングル

- 1 芦田 史朗 京滋 CFC プールレク 110.81p
- 2 芝山 耕輔 東京輪球会 52.95p
- 3 縄田 末雄 バイナルフィギュア 07 18.59p

#### サイクルフィギュア女子シングル

- 1 堀井 和美 京滋 CFC プールレク 74.28p
- 2 佐藤 風沙 京滋 CFC プールレク 48.04p
- 3 田中絵美梨 京滋 CFC プールレク 22.04p



サイクルサッカー1位の金剛東京(左2名)、対するのはMSTK



サイクルサッカー2位のチームフジ(中央2名)、対するのは大阪大学B

## '09-'10トラックワールドカップ第3戦カリ大会



## 脇本が健闘する

大会は12月10～12日の3日間にわたり行なわれた。コロンビアは南アメリカ北部に位置し、カリ市は太平洋側にある200万人都市である。競技場は中心部から約10km、闘牛場、体育館、サッカーなどのある運動施設の中にある、屋根付き250m競技場である。

この競技場は直線が長く、屋根付き解放型なので風の影響も常にある。

参加は新田祐大・脇本雄太（JPCA）佐々木龍（早稲田大学）の3選手である。空港に到着するや荷物19個中8個が到着せず心配したが、幸いにも夜到着し一安心。

まずは1日目、ケイリンに脇本が出場した。1次予選は先行するもムルダー（COF）ダルメイダ（フランス）に交わされ4着。敗者復活戦は先行逃げ切り1着で通過し2次予選に進出。2次予選では途中脚力を温存し、タイムが緩んだらそこで一気にダッシュする作戦で勝負にでる。レースは後2周過ぎ脇本は第一コーナーからダッシュ。出切る寸前、前横で落車があり乗り上げするも再乗し3着、決勝に進出した。決勝では同じ作戦を立て先行し、マクシミリアン（ドイツ）のまくりを合わせたが力尽き5着。4km個人追い抜きは佐々木が出場し4分52秒681で14位最下位と世界の洗礼を受けた。1km独走は新田がマンチェスターの教訓を生かし、1分03秒529の自己ベストで6位と健闘した。

2日目は新田、脇本が出場のスプリント200TT、新田は10秒475で8位、脇本10秒647の15位で予選通過した。1/8決勝では新田はムルダー（COF）にダッシュ勝負でやや出遅れ敗れ、脇本は経験の浅さより、気の弱さがそのままレースになり敗退した。両選手は9～12位決定戦にそれぞれ回り、新田選手はダッシュを生かした戦法で、脇本は先行で勝ち上がり、9～10位決定戦は両者の戦いになり、タイム差どおりに新田が優勝し9位、脇本は10位に確定した。

3日目、チームスプリントが行なわれた。48秒986で9位。第1走者の新田は当初48×14の予定したギアを49に上げさせ、第1,2走者の離れを最小にし、少しでも上の順位を狙ったのだが作戦は失敗した。脇本、佐々木はスタートから離れ出したが、無事完走した。

カリ大会はケイリン、スプリントの脇本の健闘が光った大会であった。先手を取り逃げ切りを狙う。これは彼の戦法であり目指すはクリス・ホイであろう。新田は確実な成長が見え、タイムも安定してきた。更なるダッシュ力強化を期待する。佐々木は初参加、更にチームオーダーでスクラッチを欠場しなければならず、精神的にも疲労が見えていた。チームスプリントでも第3走者として果敢に力を出し切った。3選手ともそれぞれの課題を見つけた

大会であった。（阿部良二）



## 【競技結果】

'09-10 UCIトラックワールドカップ  
(2009/12/10-12 コロンビア・カリ)

## 男子スプリント

- 1 SIREAU Kevin COF
- 2 FORSTEMANN Robert GER
- 3 LEVY Maximilian GER
- 9 新田 祐大 JPCA JPCU 福島
- 10 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井

## 男子1kmタイムトライアル

- 1 D'ALMEIDA Michaël FRA 1:01.171
- 2 PERVIS François COF 1:01.748
- 3 BOLIBRUKH Yevhen UKR 1:02.665
- 6 新田 祐大 JPCA JPCU 福島 1:03.529

## 男子ケイリン

- 1 D'ALMEIDA Michaël FRA
- 2 MULDER Teun COF
- 3 VYNOKUROV Andrii UKR
- 5 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井

## 男子4km個人追抜競走

- 1 POPKOV Vitaliy UKR 4:24.537
- 2 ARANGO CARVAJAL Juan Esteban COL 4:25.471
- 3 BAGDONAS Gediminas LTU 4:29.537
- 14 佐々木 龍 神奈川 早稲田大 4:52.681

## 男子チームスプリント

- 1 COFIDIS 43.966
- 2 Germany 44.187
- 3 Ukraine 45.271
- 9 日本 新田・佐々木・脇本 48.986

日本航空

Dream Skyward. JAL

世界の空でお逢いしましょう。

one world member

www.jal.co.jp

## 2009 ツール・ド・インドネシア

## 団体総合5位

**11月22日 ステージ1 (12km) TTT**

前日の監督会議でクリテから12kmチームタイムトライアルに変更になり、午前中に19チームが走り、内間、伊藤(以上鹿屋体大)、越海(日大)、青柳、早川(以上法政大)の5選手が挑んだ。

14番目にスタートしたが8番目に走ったタブリーズ(イラン)が、15分00秒でゴールし1位をキープしていたので14分台を目指したが、16分02秒でゴール。2位になったが16番目に走ったアザド(イラン)が15分28秒を出し3位に落ちてしまった。

**11月23日 ステージ2 (104.8km)**

32.2km地点にKOMがあったが日本チームは、取ることができなかった。踏切も4回通過し、でこぼこで危険であった。

前半は、内間が何回かアタックするも決まらず、集団でのゴール勝負になりアラヤのアブドラ(インドネシア)がゴールスプリントで優勝した。内間が30位、伊藤39位、越海49位、早川50位、青柳64位に終わった。青柳は、パンクのアクシデントに見舞われ集団に追いつくので足を使いすぎたものの、総合3位は、キープできた。4位との差1秒変わらず。

**11月24日 ステージ3 (149.3km)**

パレードスタート6km後に本スター

トとなりアップダウンのコース。昨日の夜中に体調を崩した青柳は、途中リタイヤとなり棄権した。

今日も内間がアタックし20秒迄離したが吸収され苦しい展開になった。また早川が2回パンクしこれも苦しくなる。越海がボトル運びの仕事をした。道路状況は今日も悪く大変だった。伊藤が19位、越海38位、早川40位、内間56位でチーム総合は、3位をキープしている。優勝はゴールスプリントでポリゴンのクデンツポ(ロシア)。

**11月25日 ステージ4 (213.8km)**

パレードスタート8.3km。今日から青柳が抜けて4人で走る事になった。ロードコンディションは、昨日と同じで最悪。

10km過ぎに内間が2人で飛び出し最初のKOMに向かったが、タブリーズの5人とアザド1人に抜かれてしまった。2分以上離れたがKOMを取れなかった。そのままイランの6人が35km付近から後続の第2グループを一時は10分以上引き離し残りの170kmを6人で逃げ切ってしまった。

内間、越海、早川らが中心で追い上げるが差が縮まらない。逆に第3グループ30人に吸収され50人の集団になった。又、この中からセブンイレブン(フィリピン)、プランB、ポリゴン(インドネシア)アザドら4人が抜け出て第2グループを形成した。2分遅れで第3グループに越海ら7人が前を追う形となりゴールを目指した。第4グループは、内間、伊藤、早川ら30人で追いかけたが前との差2分でゴールとなった。越海14位、内間21位、早川31位、伊藤38位で今日のレースは終わった。総合は、6位に後退した。宿舎に帰ると伊藤、越海が熱中症のような症状になり早く休ませた。

**11月26日 ステージ5 (138.8km)**

30kmのパレードスタート。曇り空で気温もさほど高くなく救われた。途中雨も降り出し体温を少し下げられ恵みの雨だったが、晴れ間の時は37℃もあり、選手達にはつらいようだ。

スタートして10km過ぎにザルガリ(アザド)、CCC(インドネシア)、ジョグジャカルタ(インドネシア)3人でアタックし49km地点で集団に吸収され

た。その直後にサエイダナハ(アサド)、セティアワン(CCC)、ハル(プランB)ら3人のアタックが決まり94km地点で3分38秒の差をつけた。

日本チームは、メイン集団で走るも差があき過ぎゴールスプリントで内間が7位、早川12位、越海40位、伊藤53位で雨の中のゴールとなった。サエイダナハが2人を振り切り9秒の差をつけ優勝した。伊藤の調子がいまひとつだ。チーム総合は7位に後退した。

**11月27日 休養日****11月28日 ステージ6 (175.3km)**

5.5kmパレードスタート。今日もスタート時から曇り空で気温が上がらず走りやすいと思ったがゴールに近づくにつれ35℃以上になり補給に気をつけた。スタートから各チームアタックのかけあいが続いた。日本チームうまく反応し動いていた。内間もアタックするが、うまく決まらなかった。

越海は、70km地点でパンクし第3集団でゴールとなり順位を落とした。100km過ぎに内間、早川ら12人が抜け出し第1集団を形成しゴールを目指した。145km地点のスプリントポイント過ぎに内間の一人アタックが決まりゴールを目指したが、スハラビ(タブリーズ)、サエイダナハ(アサド)、ジャヤ(ポリゴン)の3人が160km地点で内間を捕らえて抜き去り3人のゴール勝負となった。

早川の集団も内間に追いつき4位グループができた。170km地点で伊藤らの集団も4位グループに追いつき35人のゴール勝負となった。4位に来たのは内間、15位早川、29位伊藤。次の集団で越海が65位でゴールした。個人総合12位だった越海は、32位に後退、内間は17位で2つ順位を上げた。伊藤も18位、早川も19位に上げた。チーム総合も5位に上げた。

**11月29日 ステージ7 (162.5km)**

4.1kmパレードスタート。昨日と同じく曇り空で走りやすい状態に思えた。しかし30℃の温度は、体力の消耗になる。このレースも前半からアタック合戦で消耗戦になった。

40km地点で内間15人のグループでアタックが決まり後続との差が1分50秒に広がった。60km地点で二人

が追いつき17人でゴールを目指した。後ろとの差が2分30秒なので3人の補給をすませて内間の補給に行った。冷却用の氷を渡し暑さ対策をした。

95km地点で内間のアタックで8人なり、その後アラヤの56・57が遅れ、6人のゴール勝負となった。残り10kmで1分差に縮まりもうだめかと思っただが、吸収されずにゴールとなった。内間は、今日も4位でゴール。優勝したクリスナント(ジョグジャカルタ)の走行内容は5人にとって納得できないものだった反面、内間の積極的なレース運びは、評価できると思う。体調があまり良くない伊藤は21位、早川41位、越海45位、ステージチーム総合2位に入った。チーム総合5位。4位との差が6秒に縮まった。

### 11月30日 ステージ8 (63.7km)

パレードスタート29km。朝から暑くパレードの後半に補給をすませ暑さ対策をした。今日も内間がアタックしゴール4km手前まで3人で逃げたが吸収されゴール勝負ができなかった。

越海はタブリーズチームの後方に位置し、ゴール500m手前からスパートしたが敗退、早川も越海に付けてゴールを目指したが力及ばず。伊藤はゴール25km手前の踏み切りでスリップし転倒のためリタイア。47位早川、63位越海、64位内間、チーム総合は、5位のままで6秒差。明日から3人で戦う。

### 12月1日 ステージ9 (192.5km)

パレードスタート7.9km。スタートから10km過ぎに6人が飛び出し180km付近迄逃げたが、終盤になりばらけてしまい最後の1人が800m手前で吸収されゴール勝負となった。

アサドとタブリーズがレースをコントロールする展開になり、日本チームはその後ろで様子を見て走る作戦をとった。展開通りに進んだが内間の調子が上がらず、また越海、早川も疲れも出てきて思うように走ることが出来ない状態で今日もゴールスプリントは惨敗。チーム総合成績も変わらず5位のままで明日の最終ステージでもう1つ上を狙う。早川31位、内間51位、越海53位。

### 12月2日 ステージ10 (136.8km)

パレードスタート7.9km。朝7時過ぎにパレードでフェリー乗り場に移動しジャワ島からバリ島に渡る。下船してバリ時間の10時にスタートし最終レースが始まった。

今日もアタック合戦。内間、早川も

アタックしたがことごとく潰され逃げられなかった。30km地点で6人が抜け出し、88km地点では4分のタイム差になった。タブリーズがレースコントロールをし、個人・団体総合を守るレースをした。

後半は内間、早川を前方に置き、補給は越海が行いゴール勝負に賭けた。内間の指導で早川がレースの流れを学び位置取りなどの指示をうけていた。早川の反応がテンポ遅れのように思えた。終盤になり6人で逃げていた1人がメカトラブルで脱落し5人のゴール勝負となってしまった。残り4kmで1分18秒差では、吸収は、出来ない。集団でのゴールスプリントも頭が取れず早川12位、内間36位、越海44位の結果に終わった。個人総合は、内間18位、早川19位、越海30位、団体総合5位で全レース終了した。

今回アンダー23で挑んだこのレースは暑さ対策を主においた。また食事、水の管理にも注意を払いスタッフも協力しあい最終ステージゴール迄3人を走らせることが出来た。風邪、熱中症で2人脱落は、大きなハンデになったが良く頑張ったと思う。

(福田 公生)

## 【競技結果】

スปี-देि-ऑल-द-इन्टर्नेशन्ल 2009  
(09/11/22-12/3 इन्टर्नेशन्ल-जलकल-देन्डरल)

### 個人総合成績 (1349.5km)

1	SOHRABI Mehdi TPT	31:32:20
2	MIZBANI Ghader TPT	31:34:47
3	MIZUROV Andrey TPT	31:37:40
18	内間 康平 沖繩 鹿屋体育大	31:50:01
19	早川 朋宏 愛知 法政大学	31:50:22
30	越海 誠一 大分 日本大学	31:52:59
	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	DNF
	青柳 憲輝 栃木 法政大学	DNF

### 団体総合成績

1	TABRIZ PETROCHEMICAL	94:15:56
2	AZAD UNIVERSITY IRAN	94:36:41
3	D.I.JOGJAKARTAJOG	94:54:37
5	日本ナショナルチーム	94:56:28

### 第1ステージ (12km) TTT Jakarta - Jakarta

1	TABRIZ PETROCHEMICAL	15:00
2	AZAD UNIVERSITY IRAN PRO	15:28
3	日本ナショナルチーム	16:02

### 第2ステージ (104.8km) Bandung - Tasikmalaya

1	ABDULLAH FatahillahARY	2:26:53
2	SOHRABI Mehdi TPT	2:26:53
3	KUDENTSOV Sergey PSN	2:26:53
30	内間 康平 沖繩 鹿屋体育大	2:26:53
39	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	2:26:53
49	越海 誠一 大分 日本大学	2:26:53
50	早川 朋宏 愛知 法政大学	2:26:53
64	青柳 憲輝 栃木 法政大学	2:26:53

### 第3ステージ (149.3km) Tasikmalaya - Purwokerto

1	KUDENTSOV Sergey PSN	3:21:24
2	SOHRABI Mehdi TPT	3:21:24
3	ABDULLAH FatahillahARY	3:21:24
19	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	3:21:24
38	越海 誠一 大分 日本大学	3:21:24
40	早川 朋宏 愛知 法政大学	3:21:24
56	内間 康平 沖繩 鹿屋体育大	3:21:24
	青柳 憲輝 栃木 法政大学	DNF

### 第4ステージ (213.8km) Purwokerto - Semarang

1	MIZBANI Ghader TPT	5:18:09
2	SOHRABI Mehdi TPT	5:18:09
3	MIZUROV Andrey TPT	5:20:49
14	越海 誠一 大分 日本大学	5:30:17
21	内間 康平 沖繩 鹿屋体育大	5:32:13
31	早川 朋宏 愛知 法政大学	5:32:19
38	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	5:32:19

### 第5ステージ (138.8km) Semarang - Jogjakarta

1	SAEIDTANHA Abbas AUI	3:15:57
2	HALL Bradeley PLB	3:16:06
3	SETIAWAN Iwan CCC	3:16:08
7	内間 康平 沖繩 鹿屋体育大	3:17:07
12	早川 朋宏 愛知 法政大学	3:17:07
40	越海 誠一 大分 日本大学	3:17:07
53	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	3:17:07

### 第6ステージ (175.3km) Jogjakarta - Madiun

1	SOHRABI Mehdi TPT	3:55:20
2	SAEIDTANHA Abbas IAU	3:55:20
3	JAYA Herwin PSN	3:55:22
4	内間 康平 沖繩 鹿屋体育大	3:57:16
15	早川 朋宏 愛知 法政大学	3:57:16
29	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	3:57:16
65	越海 誠一 大分 日本大学	4:01:55

### 第7ステージ (162.5km) Madiun - Surabaya

1	KRISNANTO Nugroho JOG	3:47:26
2	REYNANTE Lloyd Lucien 711	3:47:29
3	HALL Bradeley PLB	3:47:29
4	内間 康平 沖繩 鹿屋体育大	3:47:29
21	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	3:47:37
41	早川 朋宏 愛知 法政大学	3:47:37
45	越海 誠一 大分 日本大学	3:47:37

### 第8ステージ (63.7km) Surabaya - Probolinggo

1	KUDENTSOV Sergey PSN	1:27:45
2	SOHRABI Mehdi TPT	1:27:45
3	SALLEH Mohdmmad Zamri MAS	1:27:45
47	早川 朋宏 愛知 法政大学	1:27:45
63	越海 誠一 大分 日本大学	1:27:45
64	内間 康平 沖繩 鹿屋体育大	1:27:45
	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	DNF

### 第9ステージ (192.5km) Probolinggo - Banyuwangi

1	ZAINAL Nor Rizwan MAS	4:31:39
2	REPACHOLI Douglas PLB	4:31:39
3	KUDENTSOV Sergey PSN	4:31:39
31	早川 朋宏 愛知 法政大学	4:31:39
51	内間 康平 沖繩 鹿屋体育大	4:31:39
53	越海 誠一 大分 日本大学	4:31:39

### 第10ステージ (136.8km) Gilimanuk - Denpasar

1	ADI Ahmad Zukardi DPG	3:11:29
2	AGUNG Sahbana CCC	3:11:29
3	ANDIKA Riyanto BKG	3:11:29
12	早川 朋宏 愛知 法政大学	3:12:14
36	内間 康平 沖繩 鹿屋体育大	3:12:14
44	越海 誠一 大分 日本大学	3:12:14

## 第5回 東アジア競技大会 (2009/ 香港)

### サイクルサッカーとチームタイムトライアルで金メダル獲得!



#### [ロードレース]

12月10日(木)晴れ

#### 女子個人ロード 100km

7ヶ国16名の選手が参加、晴天の下9時半にスタート。片道5kmの高速道路を使ったコースを往復する。行きが下りで帰りが登り坂で1kmほど、3パーセントの勾配が選手を苦しめる。

日本はスタートから積極的なレース展開で、17km地点から萩原がアタック。それに追走したSon Eunji(韓国)と二人で、集団から飛び出し逃げる。

集団からのアタックを追走し集団のペースが上がらないように指示するが、メイン集団から4名の選手がアタック(中国2名、台北2名)。集団から抜け出し萩原を追いかけるレース展開になり、西の入っている後続集団は大きく遅れる。先行する2名と追走する4名とのタイム差は20秒前後で、周回が重ねられる。

ラスト2周を残した上り坂で、2名が4名の選手に吸収される。同時に中国の選手がアタックし、直ぐに追走するが、中国、台北、中国の選手に一瞬引き離される。体力を消耗しきっていた萩原だが辛うじて追い付き、4名がトップ集団となりラスト1周となる。

ラスト3km地点で中国の選手がアタック、萩原とHuangng(台北)が逃げを許さず追走する。

ラスト500mから中国の選手がアタック、少し遅れてHuangng(台北)、Sheng(中国)、萩原と続きゴール、優勝はLiu Xiaohui(中国)。

逃げのレース展開で積極的に戦った萩原、負けたものの自分でレースを作り最後まで勝負をあきらめなかった走りは、今後の大きな自信に繋がるものであった。最後まで集団から抜け出せなかった西は、思うように力を出せず終わってしまった。

#### 男子チームタイムトライアル 80km

女子個人ロード終了後、同じコースで6カ国が参加、13時30分からスタート。2分間隔で韓国、モンゴル、日本、中国、台北、香港の順でスタート。

行きが下りで帰りが登りのコースはペース配分が難しく、スタートから他チームのタイムをチェック。タイム差を見ながら無駄な走りを無くし、スタートから平均ペースで走る。登りを苦手とする選手に下りのペースを作らせ、上りを重点にペースを作る選手と分けることで、ペースの乱れを無くした。

徐々に他チームの走りが鈍くなる所も含め、日本チームはスタートからゴールまで大きなペースの落ち込みが無く、2位の中国を2分以上引き離し優勝。

国内で2回の合宿を行い、チームワークの徹底とローテーションの合わせを重点的にを行い、競技力の強化を図った成果が出た。

#### 12月12日(土)曇り

#### 男子個人ロード (137.4km)

7ヶ国33名の参加で行われた東アジア大会男子個人ロードレースは、TTT同様に高速道路を使用して行われた。コースはスタートから7km離れた上り下りのコースを、21往復してからゴール地点に戻る難コース。計42回の登板インターバルレースとなった。

日本チームは前半のアタックに森と吉田が積極的に対応し、勝負所で井上と飯島が戦う作戦でスタート。序盤は各国共に牽制したレース展開、香港が常に主導権を取りながらアタック。

64km地点で吉田とChan(香港)の2名が集団から抜け出し集団を引き離しにかかるが、Chanがあまり先頭交代をしないため、吉田には後半に備えChanに合わせながら走らせる。2人の逃げが捕まりそうで捕まらず、登坂のインターバルがじわじわと体力を消耗させる中、各国選手が続々とリタイアする。

ラスト5周回に入り、逃げていた吉田とChanが集団に吸収される。直後に香港の選手がアタックし、集団が大きく分かれる。井上を含む香港4名、台北1名、中国1名、モンゴル1名、合計8名のトップ集団となる、

遅れた飯島をトップ集団に引き上げるため、必死にサポートする森だったが

力尽き脱落。飯島はトップ集団に入れずに終わる。

ラスト4周回に入り香港2名がアタック。井上も必死に追走するが多勢に無勢、他国の選手も協力姿勢が無く、香港の選手に逃げられてしまう。3位争いとなった第二グループは最終周、折り返しの頂上で香港がアタック。それに井上が追走し、台北が続き下りで3名となり、そのままゴール地点に向かう。ラスト7km、牽制しながらのゴール勝負はKwok(香港)が先着し、香港が1位~3位を独占した。

健闘したが惜しくも井上は4位、飯島14位。盛と吉田は前半のレース展開を日本チームに優位になるよう走り、結果リタイアしたものの力を出し切った戦いであった。

大会出発直前まで全く情報を発信しなかった香港連盟は、地元開催に限りなく有利な展開を作るため、コース情報を隠していた。

終わってみれば、中国6名エントリーで5名がリタイア、韓国は4名エントリーで全員がリタイア。厳しいレースコースであった。(強化コーチ高橋松吉)

#### [BMX]

まだまだ、アジア圏内では競技人数が少なく、更に東アジア限定になると選手参戦人数が減ってしまい、早いタイムスケジュールでレースが進み、選手にとっては厳しい試合であった。コースレイアウトもアジア選手権時よりもジャンプが低く変更設定されたため、飛びすぎる選手が何名かいて少々危険を感じた。

試合組み立てにおいては、三瓶が公式練習時だいが調子が良く期待をしていたが、予選第1レース時の転倒によりペースが崩れ、それを決勝まで引きずってしまった。

三輪は公式練習ではあまり調子が上がらず心配をしていたが、予選から足が回っており決勝での期待も大きかった。しかしながら決勝は、第1コーナーでアウト側に膨らんでしまい、先攻する中国・MA Liyunを追走するも逃げ切られてしまった。

今大会の反省点は機材チェックミスに始まり、そのことでレース組み立てが甘くなってしまったこと。そしてレー



スに対する精神的成熟度が、他選手よりも低かった事の2つ。

今後の課題としては、技術向上も含めた選手一人一人の競技に対する意識向上が必要だと考える。

(BMXコーチ 宮城 力)

### 【室内競技】

初日は、日本選手出場種目としてサイクルフィギュア男子シングルの決勝と、サイクルサッカーの予選リーグが行われた。サイクルサッカーは、日本・香港・マカオの3カ国による各々2回対戦の、総当りリーグで予選が行われた。

9:00にマカオ対香港で競技が開幕し、日本は初戦の香港戦に9:2で快勝したが、2失点は課題を残した。2戦目のマカオ戦も9:1で快勝したが、格下のマカオに1失点は満足いくものでは無かった。2回目対戦の香港戦は7:3と、点差からすると危なげなくみえるが、初戦より更に内容は良くない。予選リーグ最終、2回目のマカオ戦は14:0と全く寄せ付けず、ますますであった。予選リーグ4戦を通して、木下・松田共にフィジカルコンディションは問題無い。2009年世界選では、グループAで戦う日本に対して、香港・マカオは格下のグループBに属する。事実、木下・松田チームは香港・マカオには過去公式戦負けなしである。予選で気になったのは、オフenseでのパスコンビネーションの僅かなズレによる得点機会のミス、ディフェンスでの意思疎通のズレからのポジショニング不徹底、ボールへの集中力が少し緩慢であった事である。精神的には格下で負けるはずが無いという、過信からくる油断・慢心が少なからずあれば、競技時間が少ないサイクルサッカーでは、追い込まれた時に挽回が難しくなる。しかし普段の力を普通に発揮すれば、問題無い相手である。

サイクフィギュア男子シングルの決勝は、芦田史朗と芝山耕輔の2名が出場した。世界選での経験と反省から、帰国後調整を重ね、今大会に挑んだ。まず芝山が1番目で登場したが、緊張から演技が硬く落車もあり最後までリズムがつかめず、得点は32.39と先の世界選を上回る事が出来なかった。二人目の、国内ナンバーワンの芦田は練習時よりリラックスしており、国際大会での豊富な経験から演技に大きな期待が持てた。期待通りに、その演技は彼のパフォーマンスを最大に発揮し、一度の落車も無く、得点は世界選を大

きく上回る104.39をマークした。

芦田4位、芝山6位とメダルには届かなかったが、特に芦田は今後の活躍に大いに期待が持てる結果であった。芝山は、メンタルコントロールの克服が課題であり、選手のパフォーマンスを最大に発揮出来る様、スタッフの重要性も改めて痛感した。

競技2日目は、サイクルフィギュア女子シングル決勝に堀井和美、佐藤風沙、ペアオープンに芦田・堀井、サイクルサッカー決勝トーナメントに木下・松田が出場した。

女子シングル一人目の佐藤はやや鼻炎気味であったが、演技前から精神集中は出来ていた。最年少15歳で、先の世界選に続き国際大会は2度目となる。演技は2度の落車はあったが落ち着いた堂々としたもので、得点40.04は世界選を上回る結果であった。堀井は、国際大会でも経験豊富で、順調な仕上がりをみせていた。演技は落車の採点に厳しい部分もあり62.03と、持ち点85.20からすると大幅な減点で、本人にとっては悔しい結果となった。堀井4位、佐藤6位で、男子同様メダルへは一步届かなかった。

むかえて、サイクルフィギュアペアオープンに、今大会絶好調の芦田とシングルでの悔しさに雪辱を期す堀井のペアが出場した。国際大会初演技のペアは、練習時には落車が目立ち不安が残っていたが、本選では一度の落車も無く、芦田のリードも完璧で、堀井の優雅な演技に二人の息もピッタリ合い、観客から大きな喝采をあげた。順位は4位であったが、ペアのパフォーマンスとしては1位の香港ペアを上回るものがあり、最高の出来であった。

サイクルサッカーは、まずセミファイナルでマカオを17:0と圧勝し決勝に進んだ。決勝の対戦相手は、マカオを12:0で下した香港で、予想通りの組み合わせとなった。前半開始後は両チーム慎重な攻め合いで膠着状態が続いたが、2分42秒に日本チームがまず1点を先取した。その後1点を返され同点に。そして1点を取り返し、更に6分28秒に1点追加して、前半は3:1で折り返した。前半は木下の左からのシュートがごとごとく相手キーパーのセーブにあい、得点機会を逃し、なかなかこちらのペースへ持っていけない展開となっていた。しかし前半2点のリードは香港にとっても重く、後半では

いつものペースを取り戻せると確信していた。ところが、後半開始から僅か6秒で、香港のキックオフからの巧みなパスワークから1点を返され、3:2の1点差に詰め寄せられた。これで勢いづいたホームの香港は観客の大声援を受け、激しく攻撃を仕掛けてきた。これまで経験したことのないアウエーでのプレッシャーと、絶対に勝たなければならないプレッシャーの両方で、なかなか追加点が奪えないまま試合が経過していったが、やっと6分10秒に待望の1点をゲットし4:2とリードした。残り50秒、これでこのまま逃げ切りかと思われたが、6分45秒不覚にも1点返され4:3の1点差。残り15秒はなんとか香港の攻撃をかわして逃げ切り、結果4:3で勝利し金メダルを確保した。

サイクルサッカーは予想通りの金メダル確保の結果を残せたが、追従する香港の決勝戦での戦い振りは、大きな成長を感じさせた。アジアでは他にタイがサイクルサッカーを採用しており、サイクルフィギュアでは、中国・韓国の参戦の動きありとの情報もある。室内競技をアジアで始めたのは日本であったが、現在サイクルフィギュアにおいては、香港・マカオがトップレベルで一步リードしており、ジュニアの育成においても充実している。2009年世界選ではサイクルフィギュア男子シングルで香港が3位に入り、アジアから初のメダリストが誕生した。国内でのトップ選手の強化と普及(特にジュニア層)に、更なる充実を図りたい。練習場所の確保、自転車の入手、指導者不足、海外派遣の費用確保等課題は多いが、夫々克服して国際大会で成果をあげたい。2011年には、日本で10年ぶり2回目の開催となる、鹿児島での世界選も決定しており、トップ選手の強化は急務である。(室内コーチ 佐藤 康彦)

### 【競技結果】

第5回東アジア7競技大会(2009/香港)  
(2009/12/5-13 柯ソソチャイ)

BMX(2009/12/5)

The Hong Kong Jockey Club  
International BMX Park

#### 男子11ト

1	WONG Steven Patrick Marie Josee HKG	30.181
2	三瓶 将廣 神奈川 RED LINE	30.745
3	ZHAO Zhiyang CHN	31.827

#### 女子11ト

1	MA Liyun CHN	35.746
2	三輪 郁佳 広島 フリーエージェント	36.807
3	JIANG Nannan CHN	39.200

室内自転車競技 (2009/12/6-7)  
Tseung Kwan O Sports Ground

サイクルサッカー

- 1 日本 木下・松田
- 2 ホンコンチャイ
- 3 マカオチャイ

サイクルフィギュア男子シングル

- 1 WONG Hang Cheong MAC 157.74p
- 2 YU Sum Yee HKG 155.65p
- 3 IP Hin Bon HKG 127.49p
- 4 芦田 史朗 東京 コフ 滋賀 104.39p
- 6 芝山 耕輔 東京 パーク 32.39p

サイクルフィギュア女子シングル

- 1 KUAN Sok Mui MAC 107.66p
- 2 TSANG Yu Sum HKG 90.95p
- 3 LO Wai Man HKG 72.65p
- 4 堀井 和美 滋賀成人病センター 62.03p
- 6 佐藤 風沙 京都 西ノ京中学 40.07p

ロードレース (2009/12/10-12)

Chong San Road, Ma On Shan Bypass

男子個人ロードレース (137.4 km)

- 1 TANG Wang Yip HKG 3:47:26
- 2 YEUNG Ying Hon HKG 3:47:26
- 3 KWOK Ho Ting HKG 3:49:19
- 4 井上 和郎 福井 NIPPO 3:49:19

- 14 飯島 誠 JPCA BS アンカー 3:52:31
- 盛 一大 愛知 愛三工業 DNF
- 吉田 隼人 奈良 鹿屋体育大学 DNF

女子個人ロードレース (100km)


- 1 LIU Xiaohui CHN 2:43:41
- 2 HUANG Ho-hsun TPE 2:43:41
- 3 SHENG Yongyan CHN 2:43:41
- 4 萩原麻由子 大阪 CB あさひ 2:43:41
- 10 西 加南子 千葉 FOCUS 3:02:17

男子チームタイムトライアル (80km)


- 1 日本 飯島・盛・井上・吉田 1:38:38.84
- 2 中華人民共和国 1:41:01.89
- 3 ホンコンチャイ 1:41:36.73

## 2009-2010 シクロクロス・ナショナルセレクションシリーズ最終結果


男子エリート

氏名	チーム	黒部	霧が峰	びわこ	富士山	全日本	Total	二乗
 1 辻浦 圭一	チームブリヂストン・アンカー		120	120	120	120	480	57600
2 小坂 正則	スワレーシングチーム	120	60	60	60	60	360	28800
3 丸山 厚	MASSA-FOCUS-OUTDOOR	60	50	50	50	50	260	13600
4 山本 聖吾	スワレーシングチーム	40	40	40	5	40	165	6425
5 池本 真也	和光機器 タムクラブ	50		20	30	10	110	3900
6 合田 正之	サイクルクラブ 3UP・MURACA	30	15	30	25	5	105	2675
7 松井 正史	シノドリンキング	25	20	15		25	85	1875
8 中間森太郎	RIDLET JAPAN		30	25		20	75	1925
9 入江 克典	シノドリンキング	20		10		30	60	1400
10 平野 星矢	BIKE・RANCH		25	5	20		50	1050
11 斉藤 亮	チーム コテック				40		40	1600
12 大原 満	アイサンホーク					15	15	225
13 大塚 潤	TEAM YOU CAN				15		15	225
14 笹井 誉之	COGS				10		10	100
15 澤田 雄一	チーム サイクルマインド		10				10	100
16 向山 浩司	GRUPPO ACQUA TAMA		5				5	25

女子エリート

氏名	チーム	黒部	霧が峰	びわこ	富士山	全日本	Total	二乗
 1 豊岡 英子	パナソニックレディーズ		60	60	120	120	360	36000
2 森田 正美	チームブリヂストン・アンカー		120	120	60	60	360	36000
3 志村みち子	ウガンニールあづみの	120	50	50	50	40	310	23500
4 宮内佐季子	CLUB viento		40	40	30		110	4100
5:J 福本 千佳	ReadyGoJAPAN			30	40	30	100	3400
6:J 武田 和佳	ARAI・MURACA		25	20	25	15	85	1875
7 中島 織七	スワレーシングチーム		30		20	25	75	1925
8 山口 博子	パワーキック	60				10	70	3700
9 中村 真清						50	50	2500
10 中道のぞみ	Salata bianca kobe			25		5	30	650
11 田近 郁美	GOD HILL					20	20	400
12:U 埜真 賢美	Team グルーズ			15			15	225
13 光田 真基				10			10	100
14 上田 順子	クラブシルバースト			5			5	25

男子U23

氏名	チーム	黒部	霧が峰	びわこ	富士山	全日本	Total	二乗
 1 竹之内 悠	TREK	60	30	60	60	60	270	15300
2 小坂 光	UTSUNOMIYA BLITZEN		60	30	30	30	150	6300
3 中山 和也	スワレーシングチーム	30	25		15	25	95	2375
4 合田 啓祐	Team グルーズ		20	25	25	15	85	1875
5 小森 亮平	Trek-Live STRONG U-23		13		20	20	53	969
6 伊澤 優大	岩井商会レーシングチーム		15			10	25	325
7 小林 裕貴	信州大学自転車競技部				13		13	169
8 武田 耕大	ARAI・MURACA		8			5	13	89
9 藤岡 徹也	チームニッホ・コルナゴ		10				10	100
10 畑中 勇介	シノレーシング					8	8	64
11 村上 大輔	クラブシルバースト					3	3	9

## 加盟団体だより (5)

## 鹿児島県自転車競技連盟

普及・強化共に遅れていた当連盟では、組織改革の一環として平成5年に第1期「5カ年計画」をスタートさせ、中長期の活動方針に基づく組織運営を続けてきました。

当連盟の「マニフェスト」とも言えるこの「5カ年計画」は、現在第4期に入りスタートから17年目になりますが、8分野に渡るテーマ毎に具体的な目標を立てながら実現に向けての取組をコツコツと続け、大きな成果を上げてきました。

特に鹿屋体育大学自転車競技部は、平成7年の創部から全面的に支援を続けて来ましたが、1名の初心者選手から始まった同チームから優秀な選手が次々と育ったことで、県民の皆様の「自転車競技」の認知度は大きく上がりました。同チームと一緒にトレーニングを積むことで、県内の南大隅高校、鹿児島実業高校、鹿児島高専等に所属するジュニア選手のレベルも急上昇。国体の総合成績でもここ2大会連続で6位に入賞するなど本県登録選手達の競技力も全国トップレベルに近づいて来ました。

本土最南端「佐多岬」のある南大隅町に、活動の拠点となる根占自転車競技場(400m)が設置され、県大会等では地元競輪選手がスタッフとして全面的に協力するなど、プロとアマとの連携も上手くいっています。今年度からは県体育協会、南大隅町、当連盟が共催で、バンクでのジュニア発掘育成を主な目的とした「マイタウン事業」もスタートさせました。

バンク周辺的一般道路は、車や信号も少なく快適なトレーニング環境を与えてくれるうえ、温暖な南国の気候にも恵まれて、年々プロチームや大学チーム等の合宿が増加、昨年3月には全国高体連強化メンバー(トラック&ロード)の合宿も実施されました。

このような素晴らしい環境を活かしロードレース、マウンテンバイクレース、サイクリング大会を開催し、近年急激に増加している自転車愛好者のニーズにも応えています。

また、平成13年には南さつま市で世界室内自転車競技選手権を盛大に開催、以後毎年ドイツジュニアチームとの国際交流やジャパンカップなどを継続開催しています。更に平成23年には再び世界室内選手権を、県都の鹿児島市で開催することも決定しています。

当連盟ではこれからも「5カ年計画」の活動方針を一つずつ実現しながら、自転車競技のメジャー化に向け真面目に取り組んでいきます。  
(理事長兼広報部長 黒川 剛)

## 鹿児島県連盟活動方針 第4期「5カ年計画」

期間：平成20年度～平成24年度

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| (1) 競技力の向上  | (5) 財政基盤の確立      |
| (2) 競技の普及   | (6) 組織の活性化・人材の育成 |
| (3) 関連種目の育成 | (7) 指導指針         |
| (4) 国際化の推進  | (8) 広報の充実        |

※テーマ毎に詳細目標が設定されています。

## 国内自転車競技場の紹介 (その5)



はじめ  
競技場名：鹿児島県根占自転車競技場  
住所：鹿児島県肝属郡南大隅町根占川南 6240  
電話：0994-24-4150  
周長：400 m  
幅員：9 m  
路面傾斜：(最大) 32%  
ホームページ：<http://kgcf.net/>



**ロンドン・オリンピック  
トラック種目の変更について**

UCIは国際オリンピック委員会(IOC)の男女平等のメダル数の方針に基づき、2012年ロンドン・オリンピックのトラック種目を下記の種目に変更した。

●**トラック<男子・女子とも>**

- スプリント
- ケイリン
- チーム・スプリント
- チーム・パーシュート(団体追抜競走)
- オムニアム

なおこの変更により、男子はポイントレースと個人追抜競走とマディソンが無くなり7種目から5種目へ。女子はポイントレースと個人追抜競走が無くなり、新たにケイリンとチーム・スプリントと団体追抜競走とオムニアムが追加され3種目から5種目に変更になった。

**読者プレゼント!!!**

(株)オージーケーカプト提供のボトルを10名の方にプレゼントいたします。下記編集事務局まで、本誌へのご意見・ご希望を記入の上ご応募ください。

● **加盟団体事務局の変更**

大阪府自転車競技連盟 [kcsc@osaka-cf.com](mailto:kcsc@osaka-cf.com)  
〒586-0086 大阪府河内長野市天野町1304  
関西サイクルスポーツセンター内  
TEL:080-5326-2360 FAX:0725-57-6657

● **2009-2010年 シクロクロス強化指定選手メンバー**

**<男子エリート>**

**強化指定 A**

- 小坂 正則(長野・スワコレーシングチーム)
- 辻浦 圭一(奈良・チームブリヂストン・アンカー)

**強化指定 B**

- 丸山 厚(長野・MASSA-FOCUS-OUTDOOR PRODUCTS)
- 松井 正史(京都・シマノドリンクング)
- 山本 聖吾(長野・スワコレーシングチーム)
- 池本 真也(神奈川・和光機器)

**<女子エリート>**

**強化指定 A**

- 豊岡 英子(大阪・パナソニックレディース)

**強化指定 B**

- 志村みち子(埼玉・ラヴニールあづみの)
- 中村 真清(大阪)

**<男子U23>**

**強化指定 A**

- 竹之内 悠(京都・TREK)
- 小坂 光(長野・BLITZEN 宇都宮プロレーシングチーム)

**強化指定 B**

- 中山 和也(長野・スワコレーシングチーム)
- 伊澤 優大(滋賀・岩井レーシングチーム)

● **アンチドーピング諸規則の改訂**

2010年1月1日からアンチドーピングの諸規則改定が行われます。禁止対象となる物質の改訂等も含まれますので、ご注意下さい。JCFウェブ及び <http://www.anti-doping.or.jp/> をご参照下さい。

**連盟の動き (12月上旬~12月中旬)**

12月 2日	平成21年度第8回広報部会	於：東京・日本自転車会館3号館3階
2日	平成21年度第2回ロード競技部会	於：東京・日本自転車会館3号館4階
3日	平成21年度第5回常務理事会・選手強化本部会	於：東京・日本自転車会館3号館4階
3日	第5回東アジア競技大会日本代表選手団出発	於：ホンコン・チャイナ→帰国12/14
5日	09-10トラックワールドカップ第3戦選手団出発	於：コロンビア・カリ→帰国12/15
11日	第2回ジュニア・トラック強化合宿	於：静岡・日本CSC、日本競輪学校(～13日)
14日	平成21年度第1回マウンテンバイク小委員会	於：東京・日本自転車会館3号館3階

**<JCF オフィシャル・スポンサー>**



**<JCF オフィシャル・サプライヤー>**



シクリスムエコー No.166 2010年1月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟  
 発行人/岩楯昭一  
 編集人/井関康正  
 編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局  
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-3 日本自転車会館内  
 TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>

